

待機的開心術における術前自己血貯血の有用性

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩朝, 静子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032079

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2942 号	氏 名	岩 朝 静 子
審 査 委 員 会	主 査 教 授	田 中 淳 司	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>岩朝氏は心臓手術中の出血に対応できる準備血液として、術前自己血貯血と同種血との有効性や問題点を医学的・医療経済的に検討した。2011 年 11 月から 2013 年 1 月までに心臓血管外科にて待機的開心術に対して自己血貯血を行い、同種血追加投与なしで経過できた 26 例(A 群)と、貯血を施行しなかった 20 例(C 群)を対照として選択し比較検討した。</p> <p>A 群における平均貯血量は 1111.5ml であった。術中血液製剤使用量 ($p<0.05$)・術後出血量 ($p<0.05$)・総血液製剤使用量 ($p<0.05$)、術後人工呼吸器装着時間 ($p<0.05$) は、A 群が有意に少なく、輸血に関わる保険請求点数も、A 群が有意に少なかった ($p<0.05$)。</p> <p>このように待機的心臓手術において、自己血貯血は医学的のみならず医療経済的にも有用であり、また無輸血率を上げることが質の高い医療につながると思われ、今一度普及に努める必要があると結論づけられた。</p> <p>またこの研究に関して直接質疑を行ったところ氏は適切に説明解説を行う事ができた。</p>			
本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]			